



祈りの課題

東京教区 千葉支区

- 房総の小規模教会・伝道所のために（10月9日～10日開催の房総の教会に学ぶツアーⅡのために）
- 支区内諸教会・伝道所のこどもたちのために
- 困難な課題を抱える人々、とりわけ外国にルーツがある方々のために

郵便振替00170-5-172720

「日本基督教団東京教区千葉支区」

東京教区 北支区

- 北支区と韓国基督教長老会の交わりと連帯が深められ、東アジアに和解と平和を築く宣教の業が良き実を結びますように。

毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを2教区（東京は支区）ずつ紹介します。全国の教区・教会・伝道所を覚えて祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進基本方針

- 祈禱運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」

振替口座 00140-7-293436

東京教区 北支区

日韓青少年合同修養会は、今年19回目を迎えた中高生の日韓交流プログラムです。東京教区北支区が、姉妹関係にある韓国基督教長老会ソウル老会と共に、毎年行ってきました。

参加者たちは毎回、初めの数時間は緊張してぎこちないのですが、言葉が通じなくてもすぐに仲良くなります。この修養会は、参加者たちに「早く寝なさい」と言わない珍しいプログラムです。夜通し一緒に遊ぶからこそ仲良くなることを、スタッフたちは経験上知っているからです。親に半ば勝手に参加申し込みをされて、初めは仏頂面の子も、修養会の終わりには泣きながら「来年も絶対会おうね!」と新しい友達に伝える場面を、毎年のように見ってきました。また、ただ楽しい内容だけではなく、関東大震災の朝鮮人虐殺に関するフィールドワークや、DMZ（非武装地帯）と呼ばれるDPRK（いわゆる北朝鮮）との国境エリアで平和について学ぶプログラムなどをこれまで行ってきました。大人たちであれば、日韓で共に学ぶことを躊躇（ちゅうちゆ）するような内容でも、中高生たちはまっすぐに受け止め、

東京教区 千葉支区

千葉支区の教育部は4つのイベントをもって、支区内のCS活動を支援しています。夏には「JS（ジュニア・シニア）サマーキャンプ」を通して支区内の中高生年齢の子どもたちの交わりと成長を、秋には「CS教師協議会」で各教会のCSの情報交換と学びを、春には「JS春の集い」と「CS生徒大会」を通して交わりと楽しいひと時を目指しています。

2023年は、コロナ禍によるさまざまな制限が緩和され、ここ3年でできなかったことが完全な形で再開できる恵みの年となりました。再開の第一歩として「CS生



韓国の手遊びゲームで盛り上がる参加者たち

学びを通してさらに仲良くなります。そのように修養会と共に成長してきた子どもたちが、大学生や社会人になってからもユーススタッフとして関わり続けており、感謝でいっぱいです。「自分が体験した楽しさを年下の子たちにも伝えたい」と、国を超えて親友になった子たちと一緒に、続けて参加してくれるのです。そのような姿はまさに「平和を実現する人々」であり、私たち大人が子どもたちから教えられるものがたくさんあります。子どもたちが自分たちの力で平和をつくっていく、そのお手伝いをこれからも続けていきたいと願っています。（日韓青少年合同修養会スタッフ、王子教会牧師 長尾有起）

徒大会」が4月29日、千葉本町教会付属の羔幼稚園にて行われました。幼稚科・小学生を対象に、礼拝と交わりの時を持ち、10教会から子ども35名を含む67名が参加しました。

大会では、まず一緒に礼拝をささげます。その後、それぞれの教会学校を象徴する旗を見せながら、自分たちの教会学校を紹介。お昼は持参のお弁当で楽しく食事をし、午後はレクリエーションやゲームなどを楽しむ「フィールドゲーム」の時間を持ちます。今年のフィールドゲームは、賛美歌合戦や聖書クイズ、聖書物語紙芝居、じゃんけん大会、おもちゃ釣り、椅子積み上げパランスゲーム、走りながらの玉入れでした。フィールドゲームの企画は、有志のCS教師が奉仕し、当日の運営はCS教師の他に、当日来てくれた中高生も奉仕に加わってくれました。

支区内には子どもいない教会も多く、各教会のCSの規模も大きくありません。けれども、このような交わりを通して、一緒に歩んでいる仲間がいることを確認し、希望をもって伝道に励む時となることを願っております。

（千葉支区教育部委員長 金南教）



4月29日、千葉本町教会羔幼稚園で開かれた「CS生徒大会」